

2013年12月期 本決算説明会



第43回 東京モーターショー ヤマハブース

ヤマハ発動機株式会社

2014年2月12日

本日も説明する内容

2013年12月期 本決算

- **概要説明** 代表取締役社長 柳 弘之
- **事業別説明** 取締役 篠崎 幸造

- **業績予想について**

この説明資料内で述べられているヤマハ発動機株式会社の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。

概要説明

2013年：前年比、売上高+2,028億円・営業利益+365億円。

（先進国）黒字化（新興国二輪車）前年並み（その他）売上高+10%

2014年：前年比、売上高+895億円・営業利益+199億円を予想。

事業戦略の補強・見直し、計画前倒しに取り組む。

（億円）	12年実績	13年実績	14年予想
売上高	12,077	14,105	15,000
営業利益	186	551	750
営業利益率	1.5%	3.9%	5.0%
経常利益	273	601	770
当期純利益	75	441*	450
為替レート (\$/€)	80円/103円	98円/130円	100円/135円

先進国事業

- マリン販売増加・為替効果等により、黒字化達成。
- リーマンショック後の二輪車出荷台数減少が底打ちする。

新興国二輪車事業

- 景気鈍化・金融引締めの影響により、踊り場状態続く。
- 各市場において（ベトナム・タイ除く）、前年比販売増加。

その他事業

- RV：新商品投入により、事業改善進む。
- SPV・特機：新商品投入・顧客開拓により、事業改善進む。

長期戦略

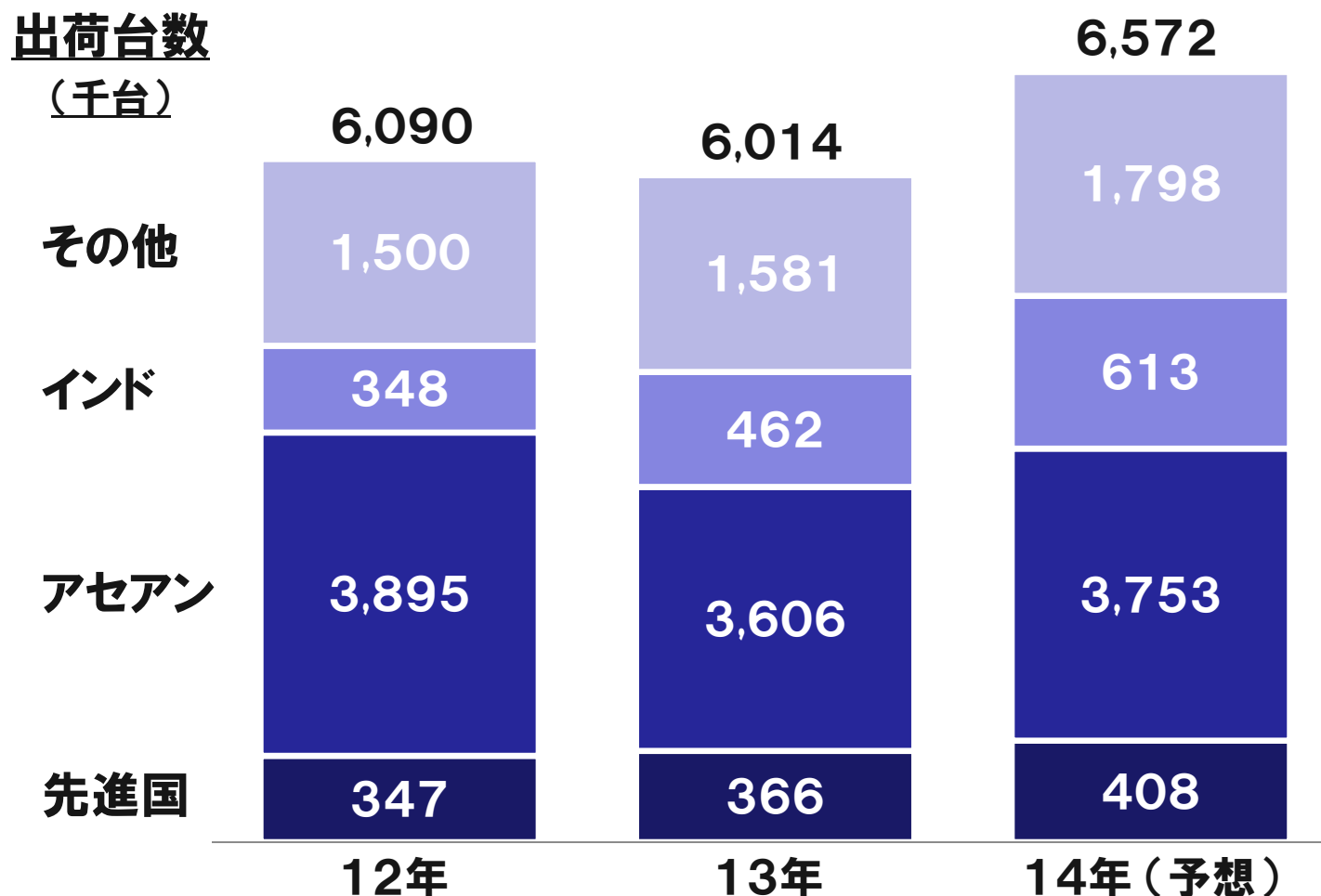
- LMW導入準備、新規分野の開発プロジェクト進む。
- 市場参入準備進む（パキスタン二輪車・中国マリン等）。

構造改革

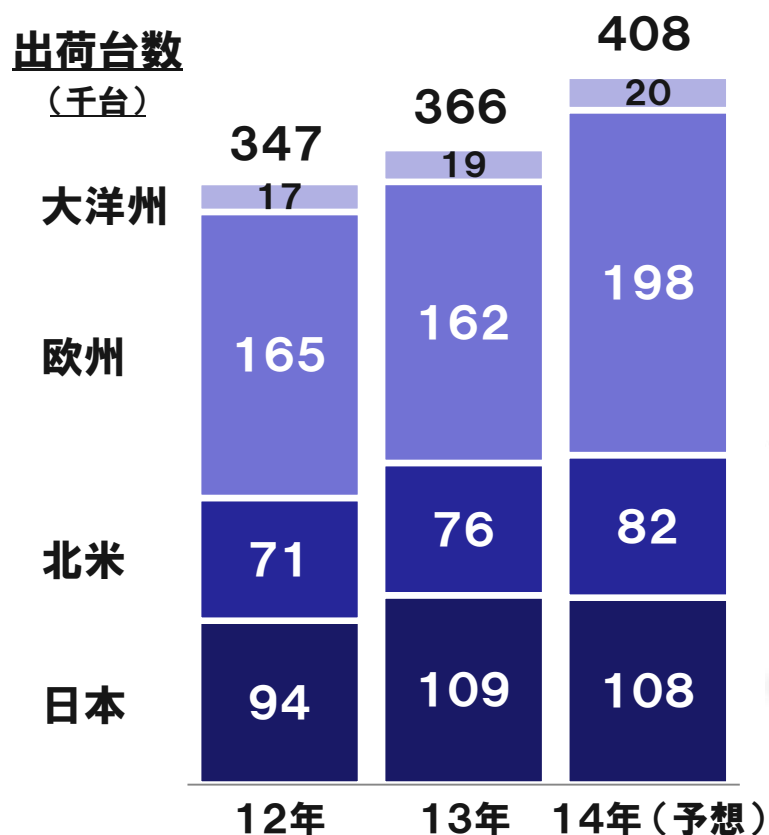
- 国内工場再編成（8工場・16ユニット）、
中期コストダウン（初年度104億円）、欧州事業体制改革進む。

二輪車事業：世界販売状況

- 2013年：総数601万台、各市場（タイ・ベトナム除く）で増加。
- 2014年：総数657万台、先進国・インド・ブラジル等で増加予想。



- 2013年：当社出荷は、37万台・106% 底打ち・回復進む。
日本115%、北米上期99%・下期118%、欧州上期89%・下期113%
- 2014年：総需要は、日本・北米で増加、欧州は前年並み。
当社出荷は、41万台・111%を予想。



主な取り組み（2014年）

- ◇高性能・軽量・低燃費＋デザイン戦略
- ◇MT領域・その他の拡充



MT-07

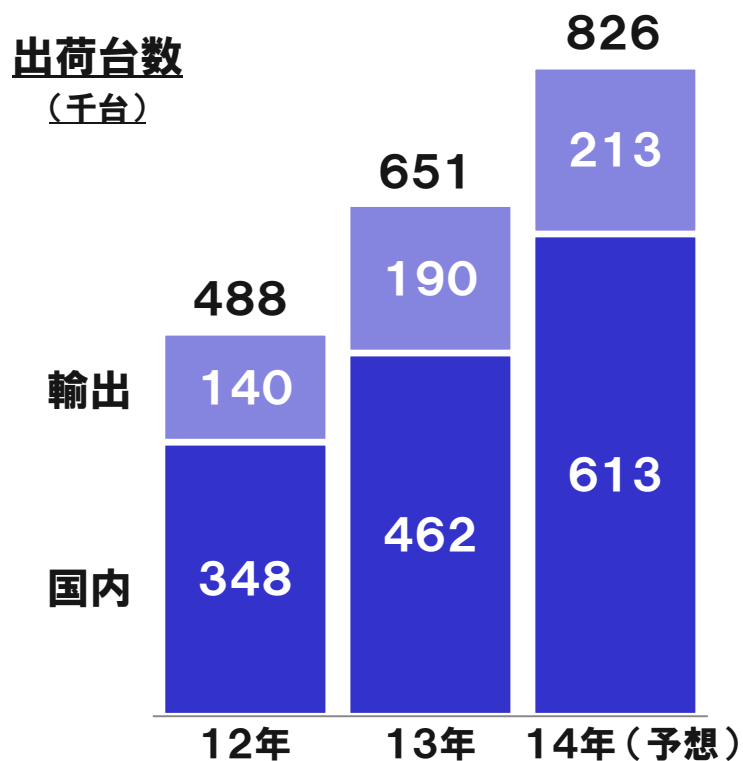


MT-09

- 2013年：総需要は、3Q以降持ち直して1,434万台・104%。
当社出荷は、総数65万台・(国内)133% (輸出)136%。
- 2014年：総需要1,500万台、当社出荷83万台・127%を予想。

主な取り組み（2014年）

- ◇スクーター/デラックス領域の強化
- ◇市場・顧客開拓 都市部から地方部へ
- ◇新工場立ち上げ（10月予定）



CYGNUS RAY Z

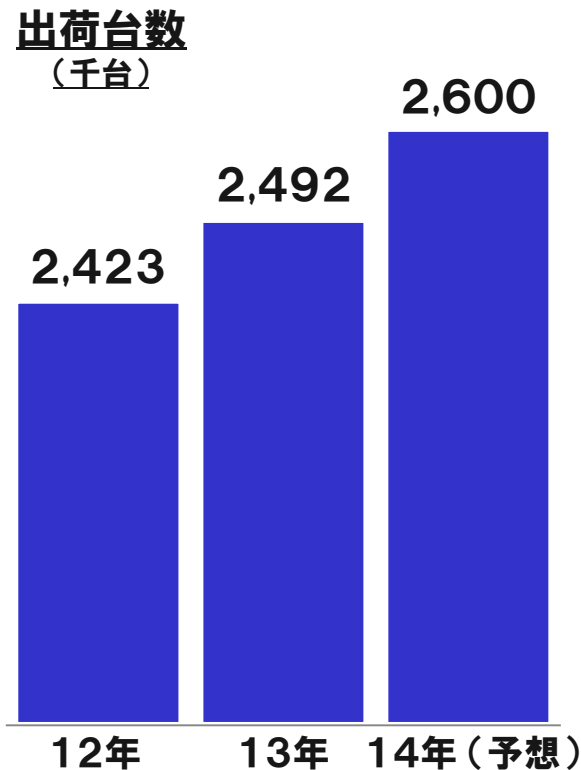


CYGNUS α

- 2013年：総需要は、頭金規制後反転して774万台・110%。
当社出荷も、反転して249万台・前年比103%。
- 2014年：総需要780万台、当社出荷260万台・104%以上を予想。

主な取り組み（2014年）

- ◇スポーツ領域等の強化
- ◇次世代エンジン+プラットフォーム、
グローバルモデル投入



GT125



R15

- 2014年 2モデル投入、2015年以降 継続投入する。
- ・個性的な商品性（高性能・軽量・低燃費＋デザイン）とコストの両立
- ・新しい価値の提案、新しい顧客の獲得
- ・アジアからグローバル市場へ

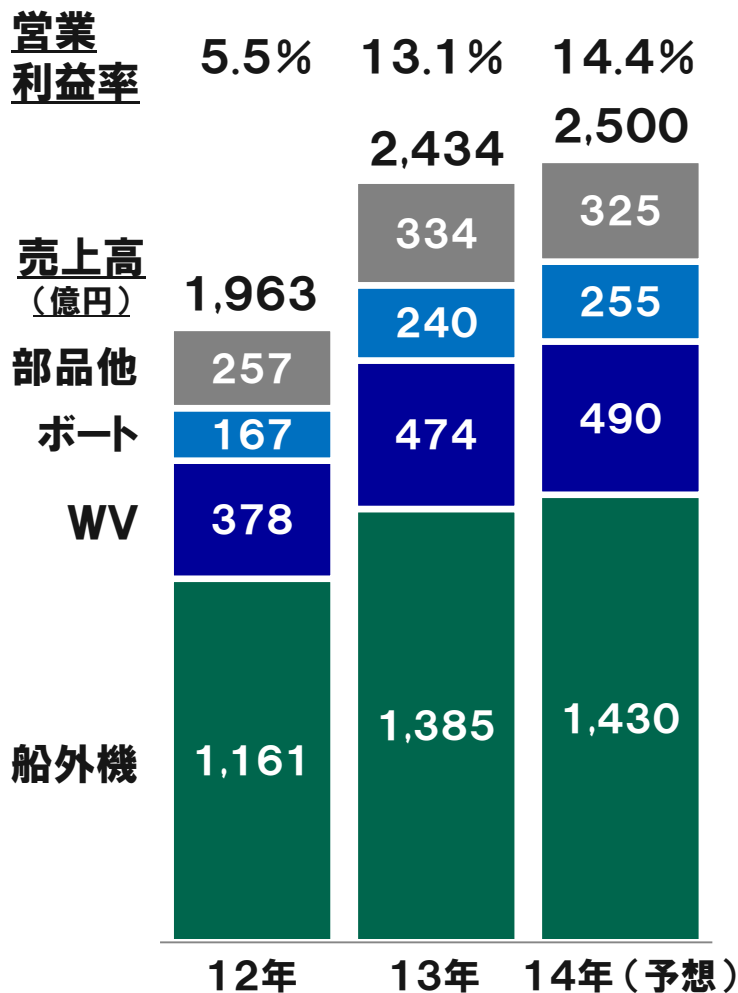


R25
(東京モーターショー参考出展車)



TRICITY Concept
(東京モーターショー参考出展車)

- 2013年：増収・増益、特に営業利益率の改善進む。
船外機は、新商品投入（200馬力等）により北米での販売増加。
- 2014年：更なる増収・増益を目指す。

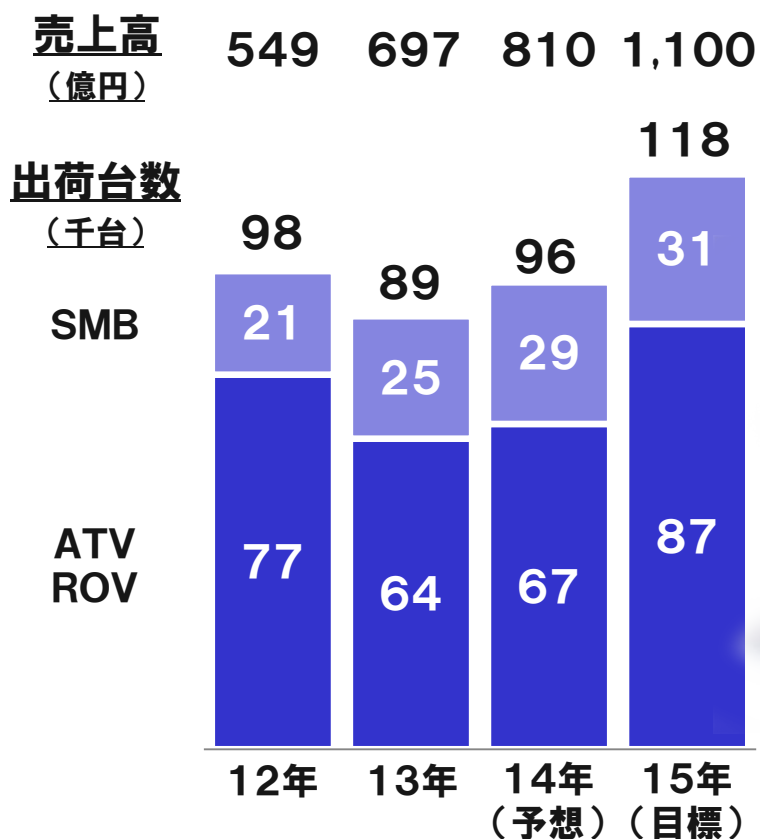


主な取り組み（2014年）

- ◇先進国：新商品投入続く（115馬力等）
- ◇新興国：船外機生産開始（タイ）
- ◇中国：漁船製造工場立ち上げ（9月予定）



- 2013年：当社出荷は、8.9万台・91%、増収127%。
 - ・ROV：5年間連続の商品投入による強力ラインナップ復活へ。
 - ・SMB：他社OEMによる新商品投入、ロシア市場での販売増加。
- 2014年：当社出荷は、9.6万台・108%、増収116%を予想。



主な取り組み (2014年)

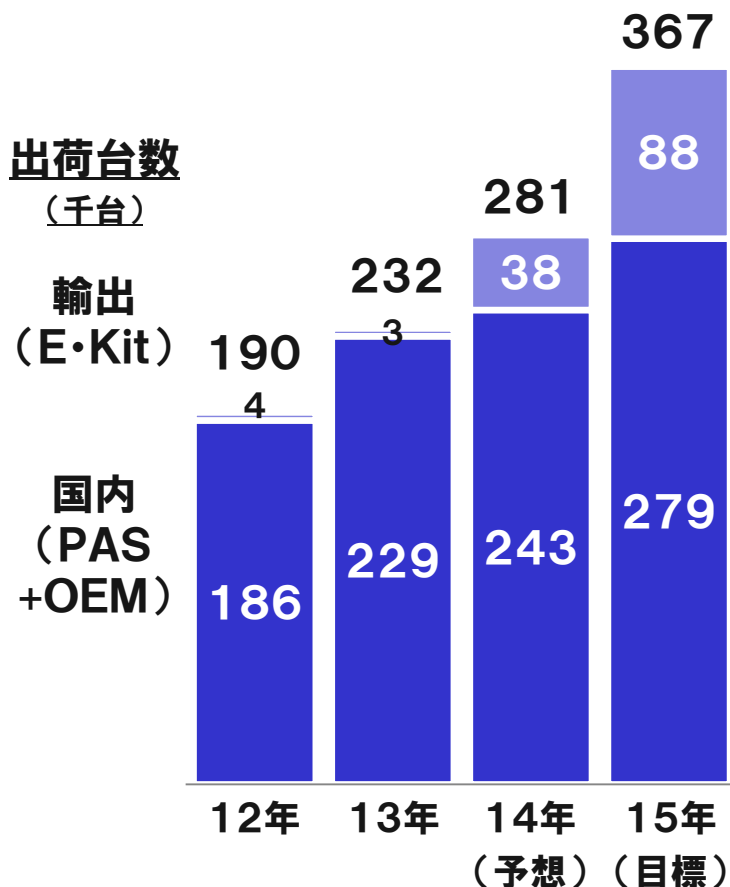
- ◇高性能・高信頼性の商品づくり
- ◇顧客層を広げるラインナップ拡充



VIKING

SR VIPER

- 2013年：当社出荷は、23万台・122%。
 - ・国内：トリプルセンサー投入・需要開拓等による。
 - ・欧州：提携先3社から4社へ（+数社獲得見込み）、拡大準備進む。
- 2014年：当社出荷は、28万台・121%を予想。



主な取り組み (2014年)

- ◇新パワーユニット導入、高機能拡充
- ◇国内外市場で顧客層を広げる



PAS KISS MINI
(子供乗せモデル)



欧州 E-Kit

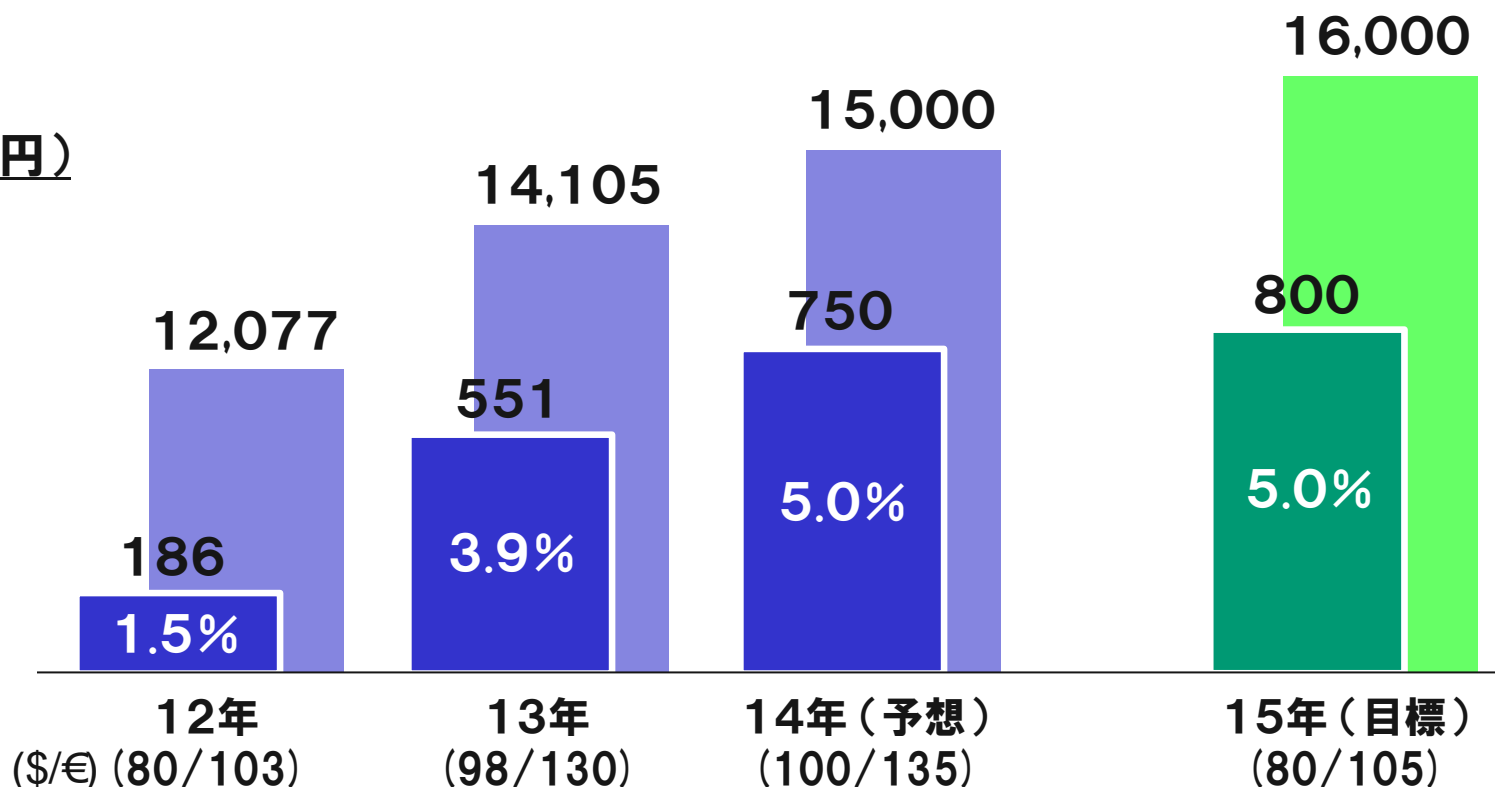


EVINO
(東京モーターショー
参考出展車)

2013年 配当・2014年 業績予想

- 2013年：年間配当1株当り26円（配当性向20%）を実施予定。
- 2014年：売上高1.5兆円・営業利益750億円、年間配当26円を予想。
事業戦略の補強・見直し、計画前倒しに取り組む。

売上高・
営業利益(億円)



当期純利益
年間配当

75億円
10円

441億円
26円

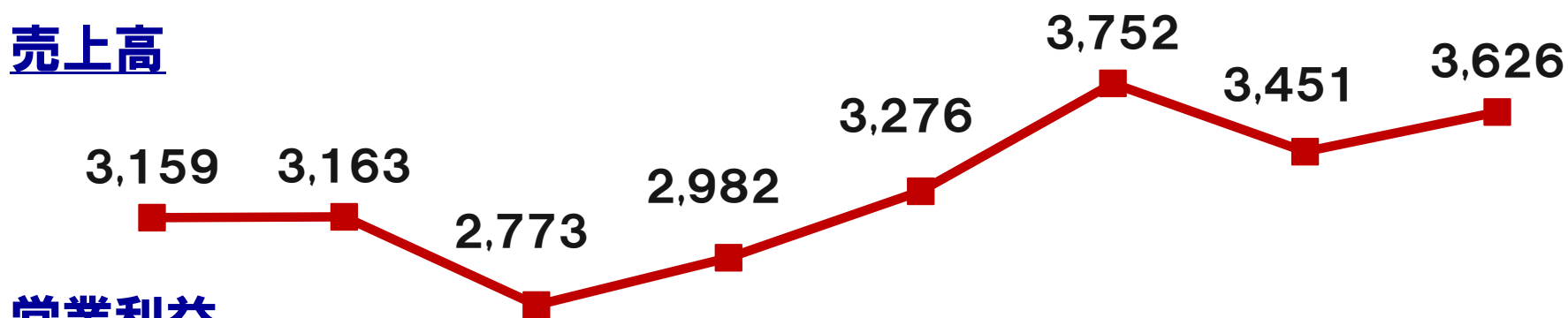
450億円
26円

事業別説明

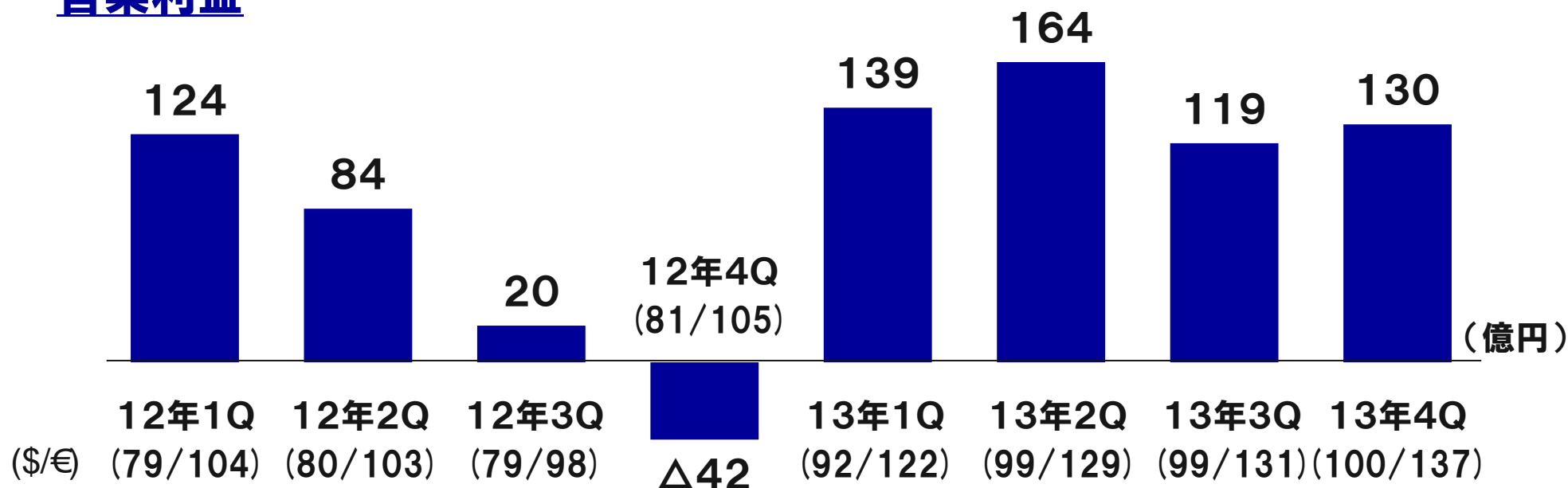
売上高・営業利益 四半期推移

- 2012年：新興国の在庫調整により、下期に入り利益減少。
- 2013年：先進国販売増加、新興国販売回復により利益安定化。

売上高

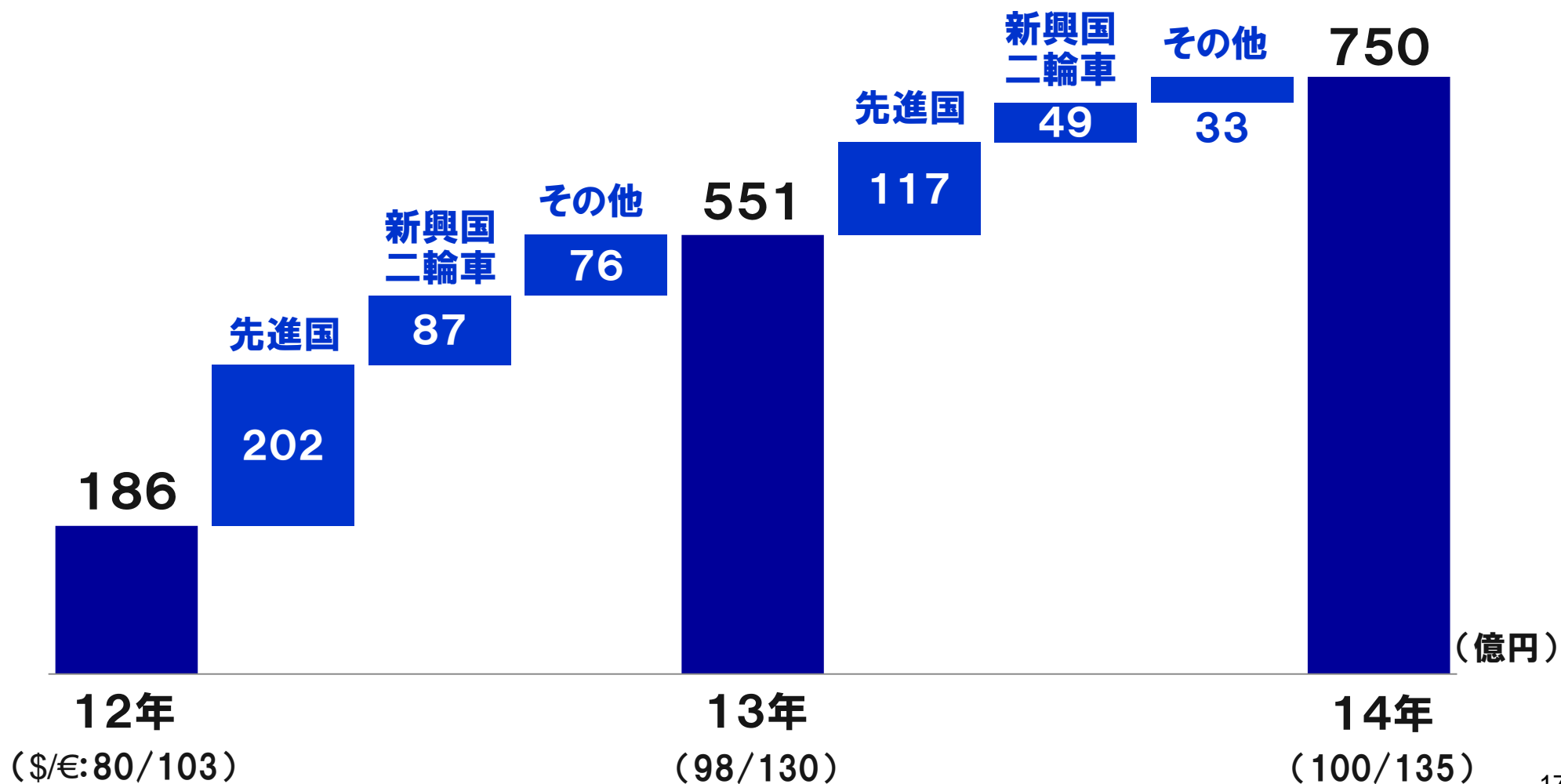


営業利益



営業利益変化要因

- 2013年：先進国改善、インドネシア・インド増益によりタイ減益を吸収。
- 2014年：先進国の更なる収益改善、新興国二輪車販売増加で増益。

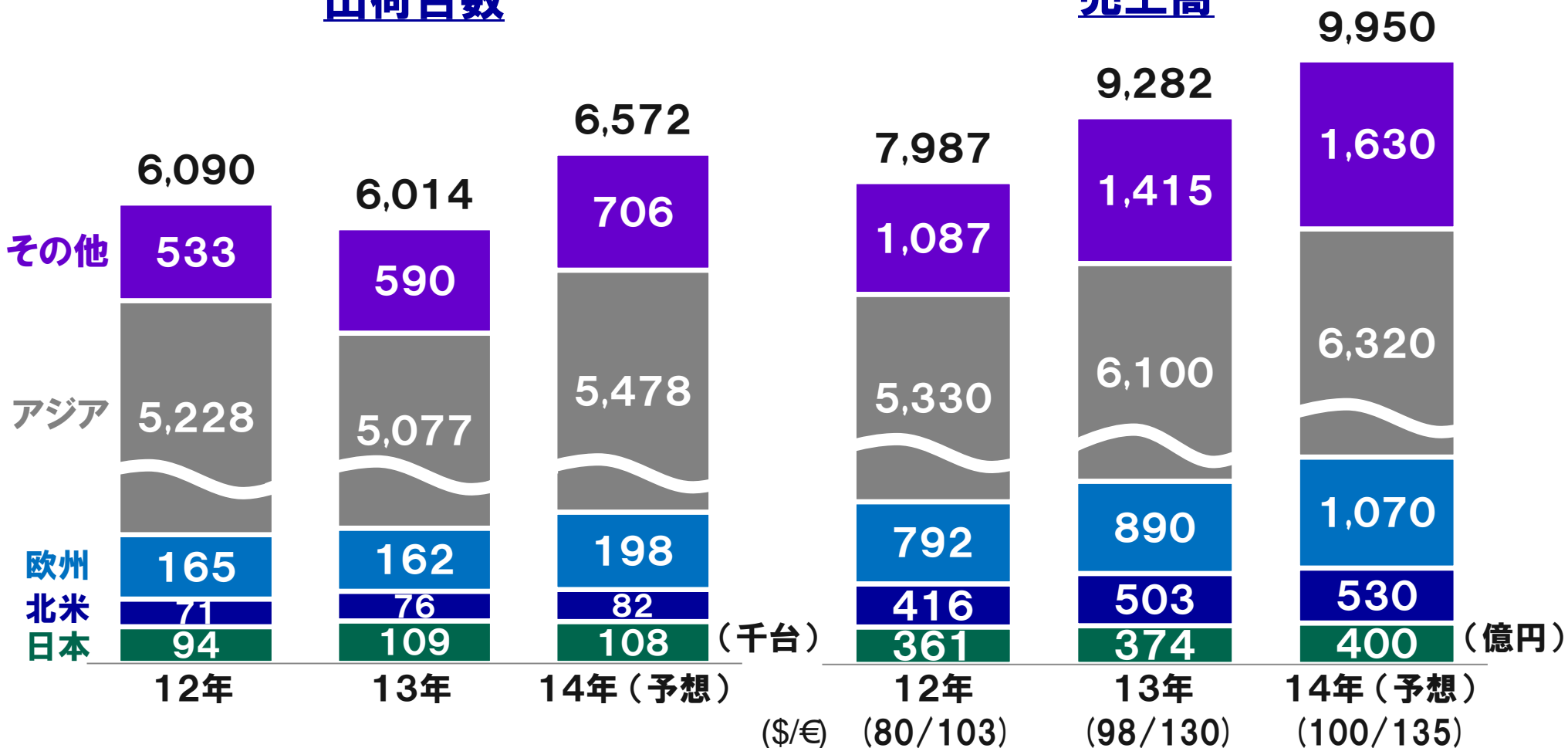


二輪車 販売台数・売上高

- 2013年： 売上高は為替影響・モデルミックスにより前年比増加。
- 2014年： 出荷台数・売上金額ともに前年比伸張。

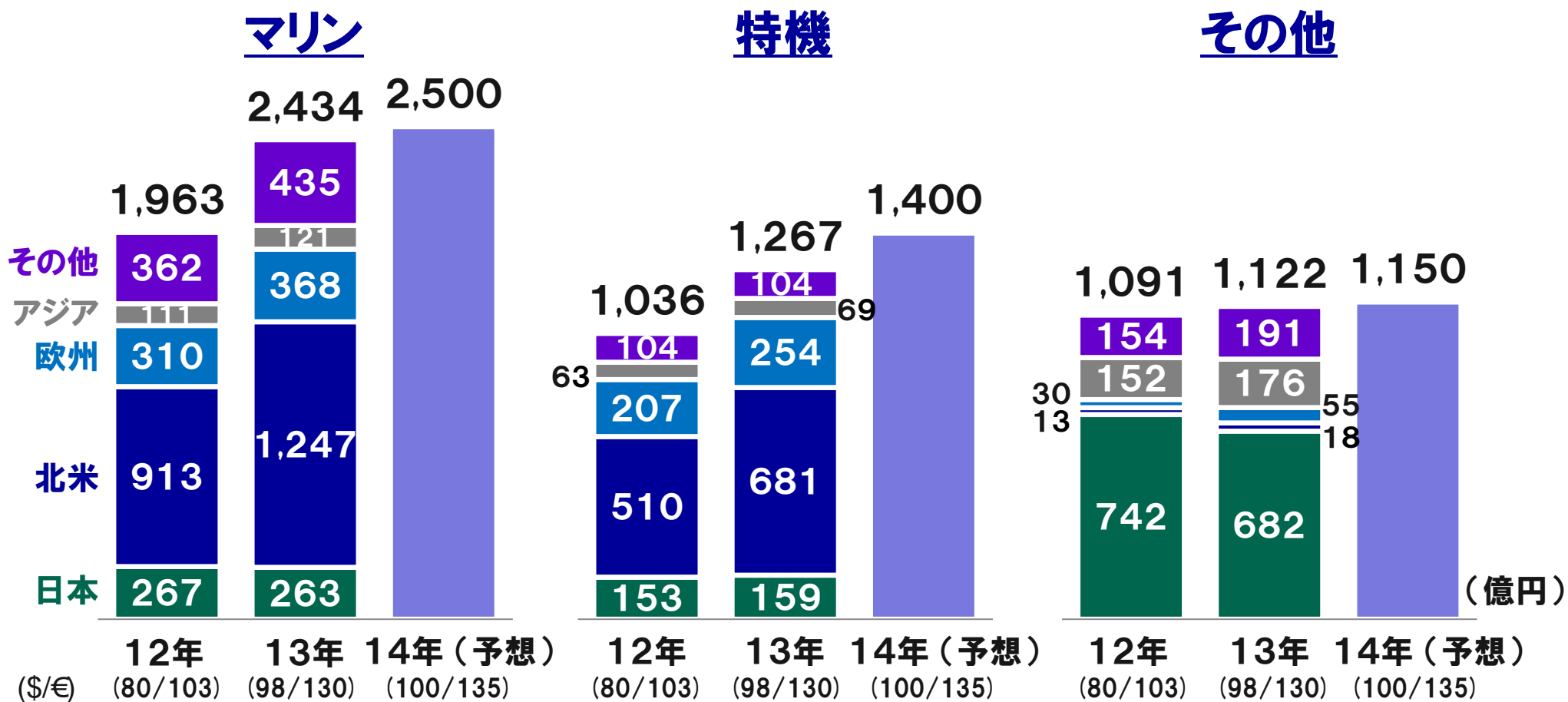
出荷台数

売上高



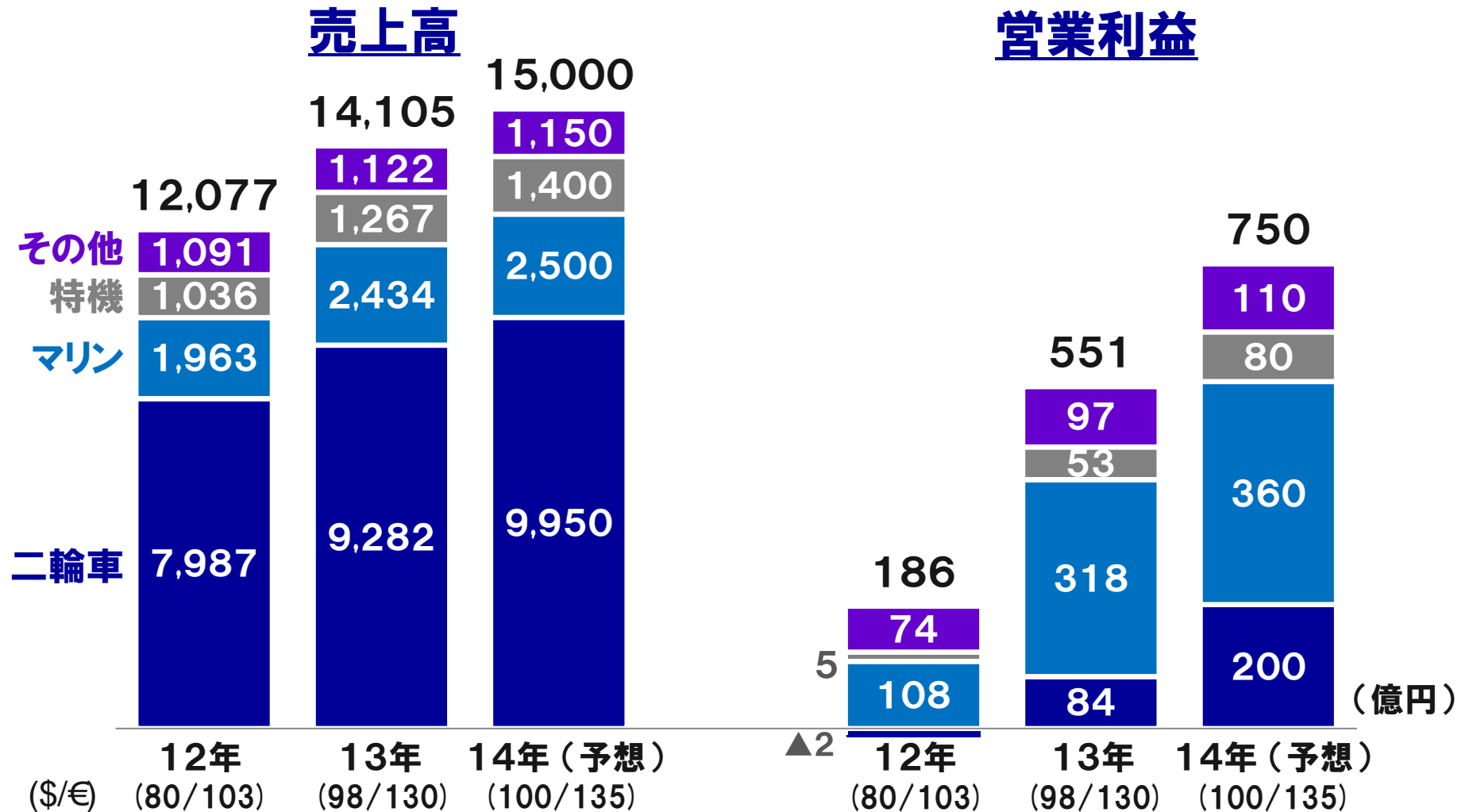
マリン・特機・その他 売上高

- マリン : 北米での大型モデルの販売増加とロシアでの販売拡大。
- 特機 : ROV新商品効果、ゴルフカー・スノーモビル販売増加。
- その他 : 電動アシスト自転車・IM増収。

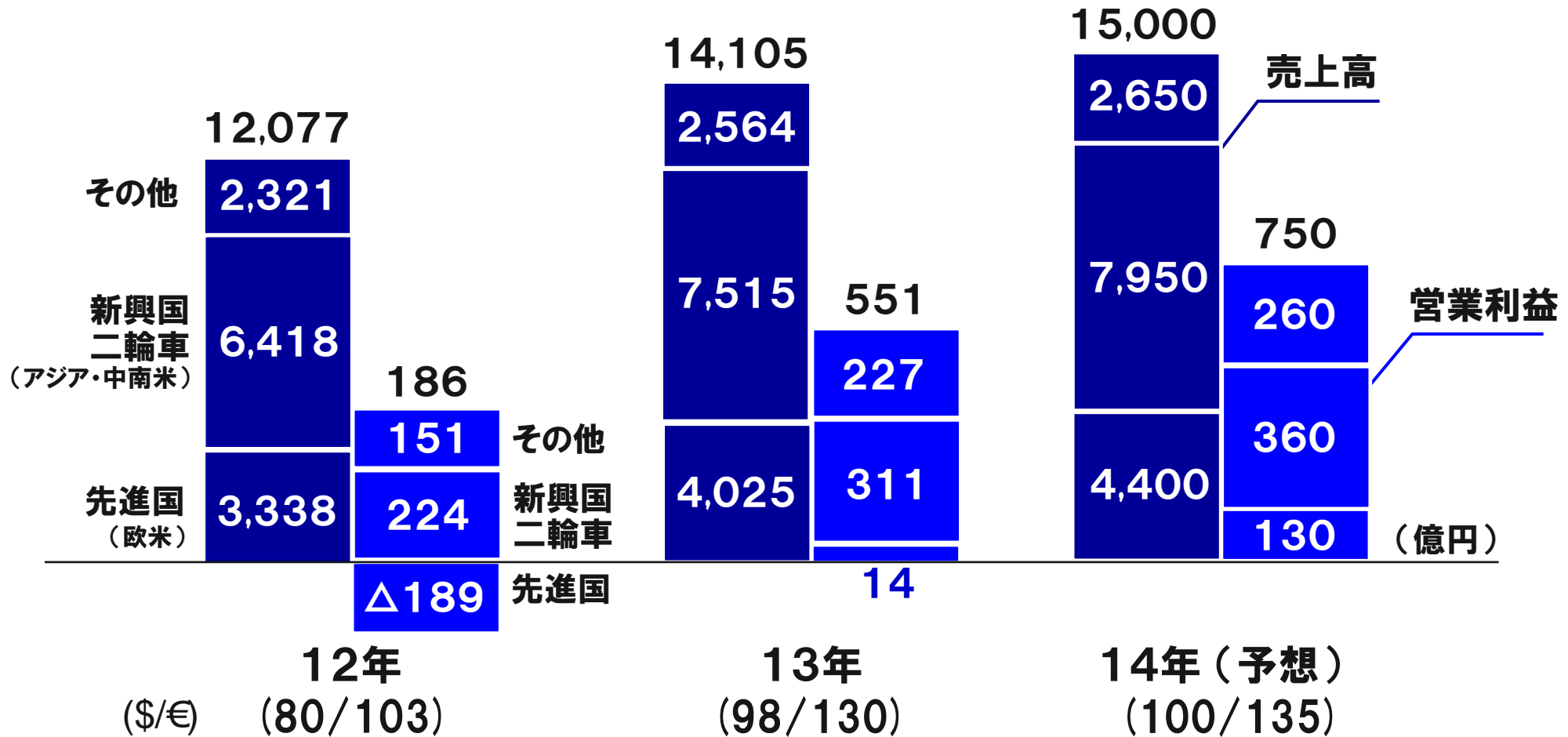


事業セグメント別売上高・営業利益

- 2013年：営業利益 二輪車底打ち、マリン大幅改善。
- 2014年：全セグメント増収・増益を目指す。

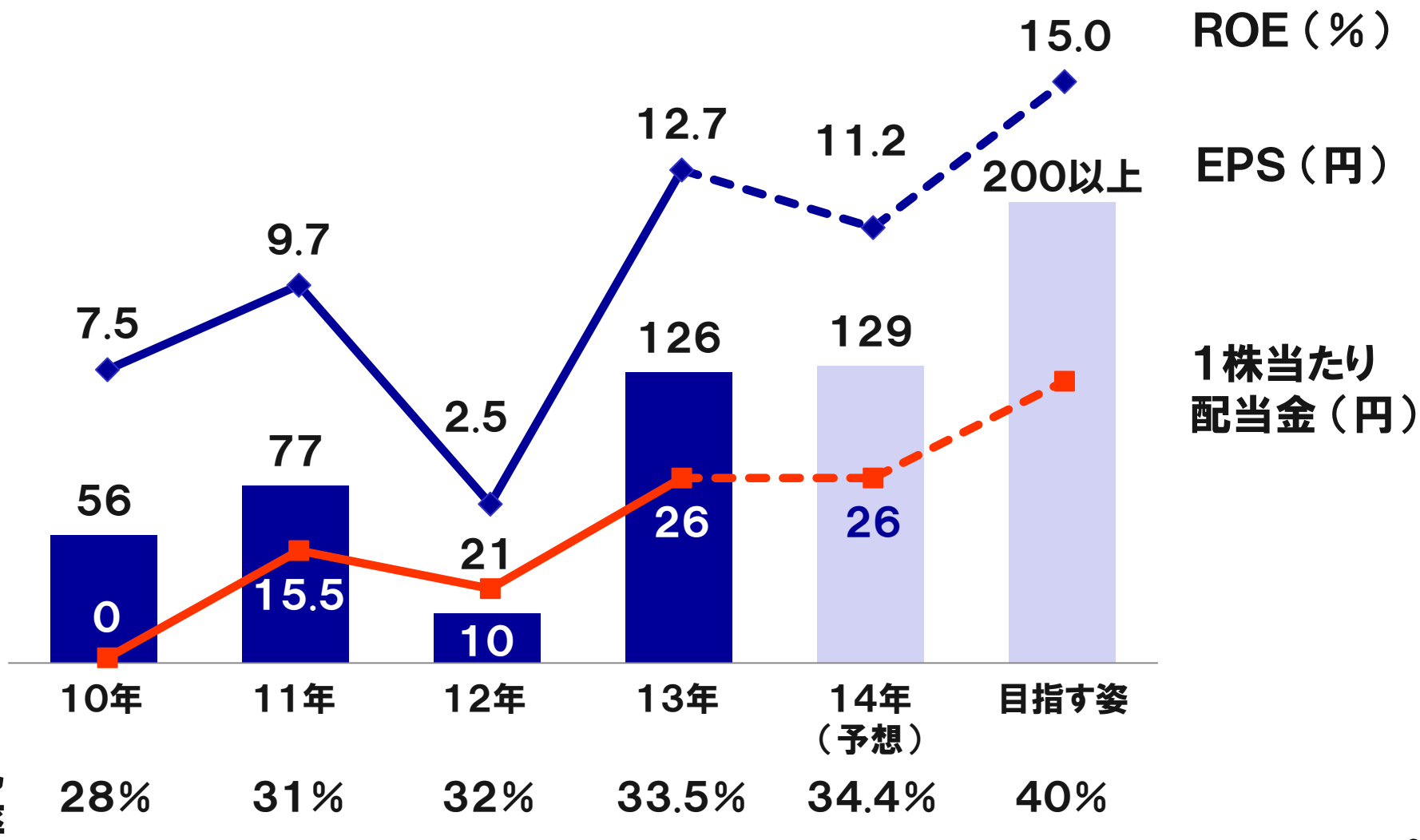


- 2013年：先進国事業黒字化達成。
- 2014年：新商品効果で先進国本格回復、新興国は規模増加を目指す。



※ 先進国：日米欧向二輪車・四輪バギー・船外機・ウォータージェット・スノーモビル、その他：先進国、新興国二輪車以外

- 1株当たり利益向上により、安定した株主還元を実施。
- 目指す姿：ROE15% 1株あたり利益200円以上。





YAMAHA

Revs Your Heart

主要商品別 総需要・当社出荷台数



台数単位:千台

	総需要(当社推定)		
	12年実績	13年実績	14年予想
日本	442	460	463
北米	502	520	548
欧州	1,744	1,649	1,659
インドネシア	7,064	7,744	7,800
タイ	2,129	2,004	1,800
インド	13,806	14,343	15,000
ベトナム	3,109	2,793	2,800
台湾	628	668	680
中国	12,630	11,627	10,697
その他	4,537	4,365	4,468
アジア計	43,903	43,544	43,245
ブラジル	1,654	1,515	1,500
その他	7,244	7,989	8,772
その他計	8,897	9,504	10,272
二輪車計	55,490	55,678	56,187
船外機	759	781	816
ATV	516	523	522
電動アシスト自転車(日本)	386	435	467

	ヤマハ発動機 出荷台数		
	12年実績	13年実績	14年予想
日本	94	109	108
北米	71	76	82
欧州	165	162	198
インドネシア	2,423	2,492	2,600
タイ	550	348	350
インド	348	462	613
ベトナム	922	766	803
台湾	179	189	226
中国	492	465	505
その他	313	355	381
アジア計	5,228	5,077	5,478
ブラジル	164	179	222
その他	369	411	485
その他計	533	590	706
二輪車計	6,090	6,014	6,572
船外機	322	313	326
ATV	70	55	49
PAS(完成車)	104	131	144

売上高 (億円)

	年間			4Q	
	12年実績	13年実績	14年予想	12年実績	13年実績
二輪車	7,987	9,282	9,950	2,009	2,326
マリン	1,963	2,434	2,500	423	581
特機	1,036	1,267	1,400	308	426
その他	1,091	1,122	1,150	241	293
合計	12,077	14,105	15,000	2,982	3,626

営業利益 (億円)

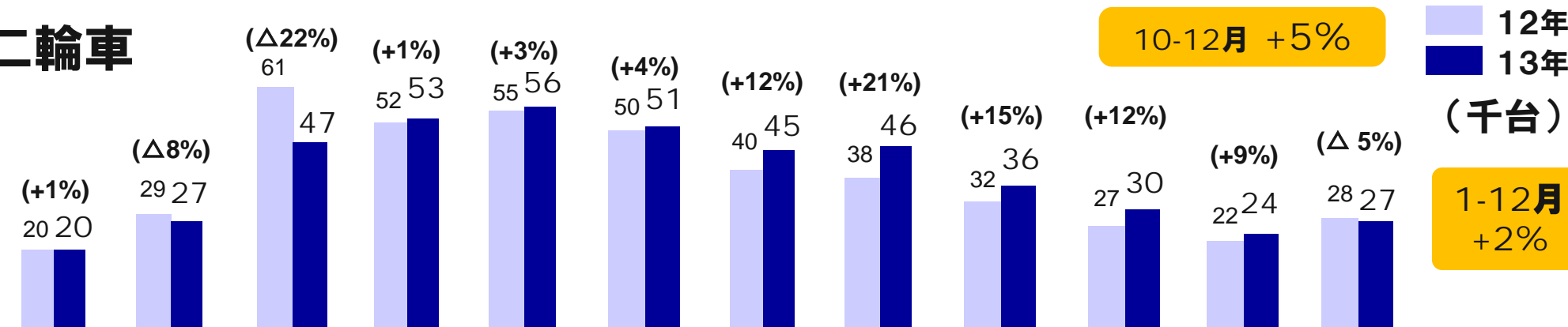
二輪車	△2	84	200	△29	22
マリン	108	318	360	1	72
特機	5	53	80	△21	11
その他	74	97	110	8	25
合計	186	551	750	△42	130

営業利益率 (%)

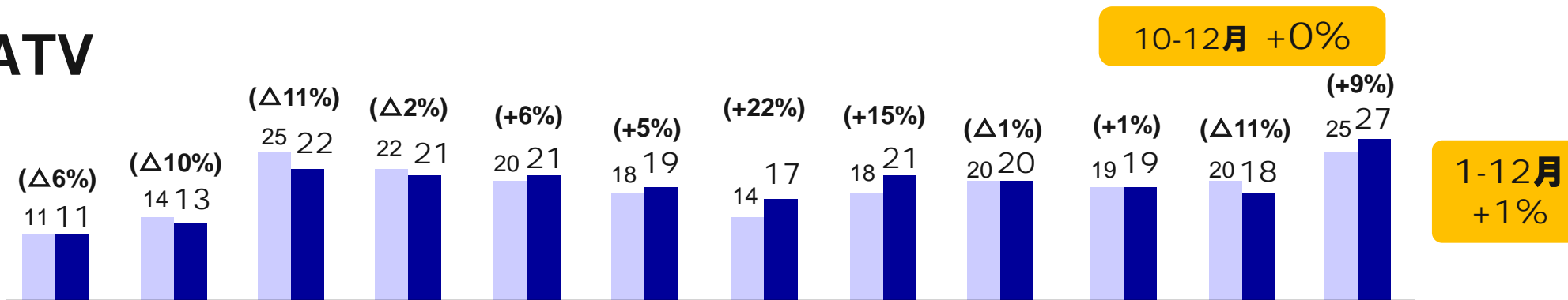
二輪車	△0.0%	0.9	2.0	△1.5%	1.0
マリン	5.5	13.1	14.4	0.3	12.4
特機	0.5	4.2	5.7	△7.0	2.5
その他	6.8	8.7	9.6	3.2	8.4
合計	1.5	3.9	5.0	△1.4	3.6

米国主要商品 月別総需要推移

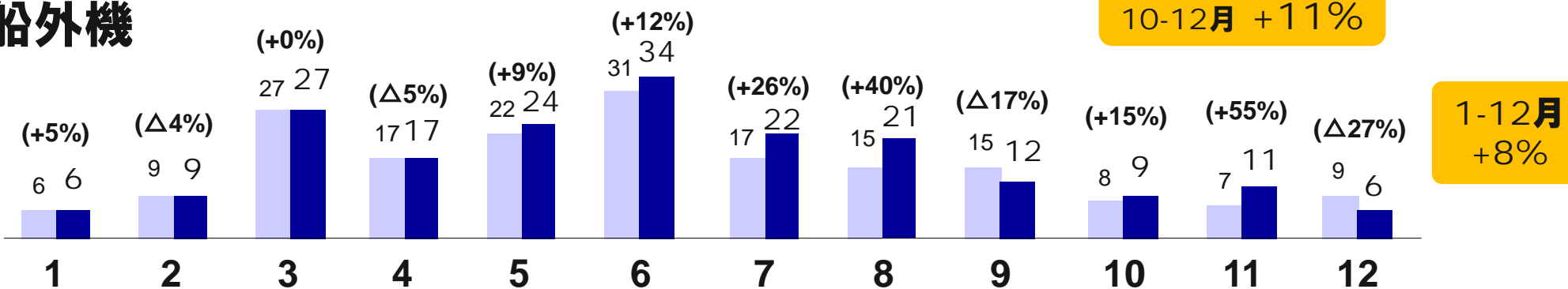
二輪車



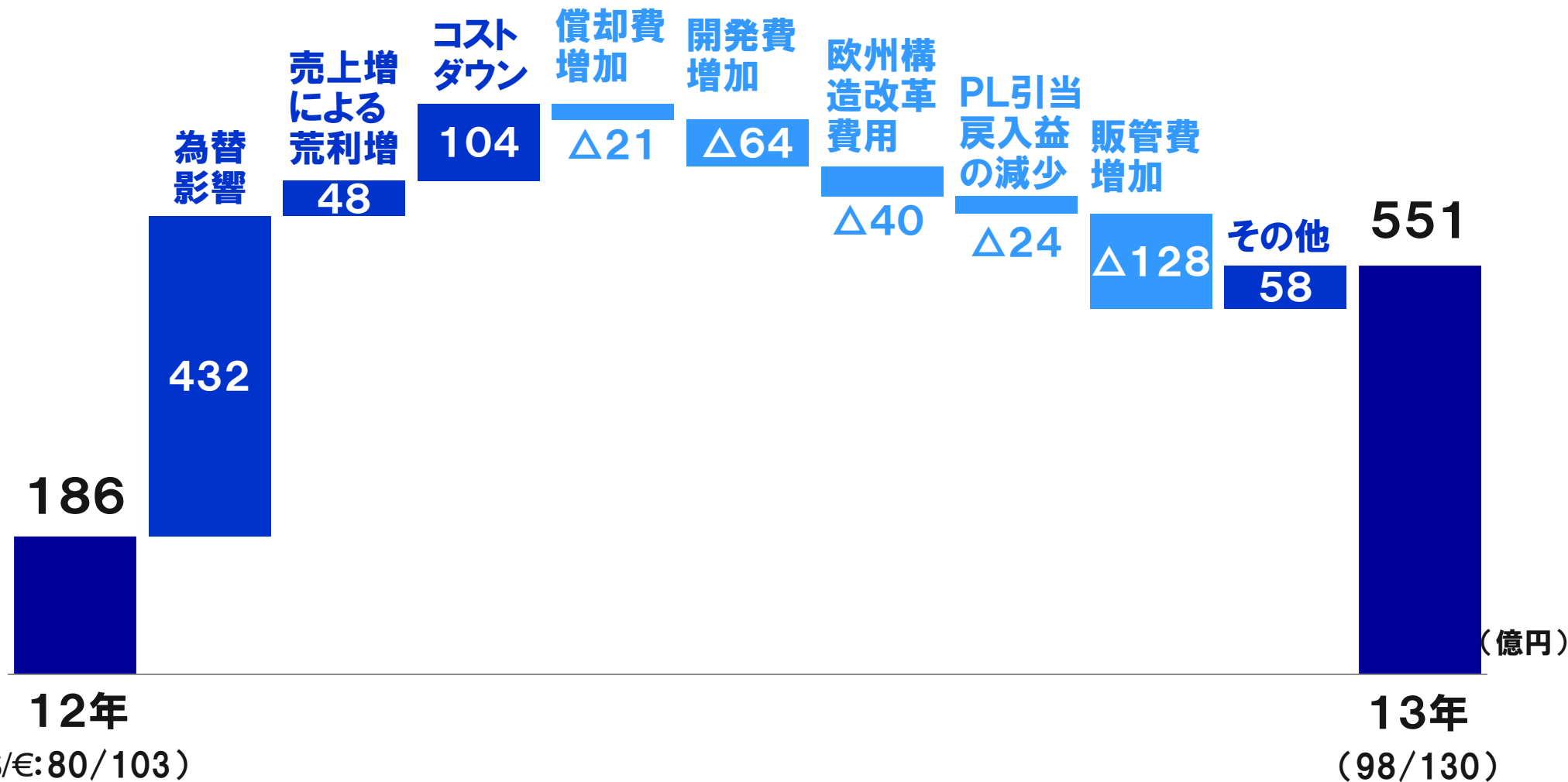
ATV



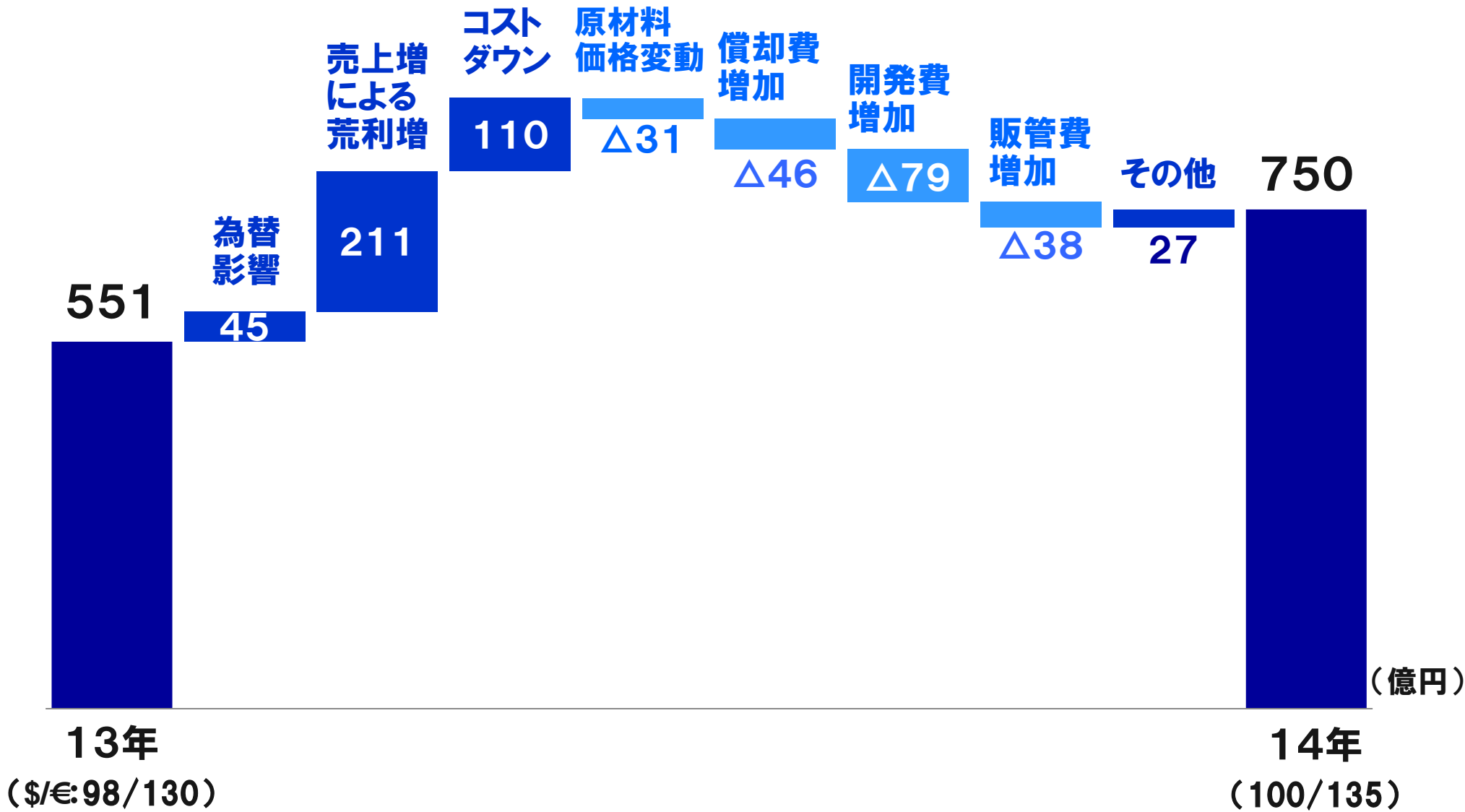
船外機



営業利益変化要因【12年実績 対 13年実績】



営業利益変化要因【13年実績 対 14年予想】



為替影響（対前年）

(億円)	13年(年間)				14年(年間)			
	US\$	EURO	その他	合計	US\$	EURO	その他	合計
本社の輸出入にかかる為替影響	297	103	0	400	30	18	0	48
粗利益の換算影響(海外子会社)	73	41	193	307	13	12	△24	1
販管費の換算影響(海外子会社)	△68	△55	△152	△276	△10	△11	17	△4
営業利益への為替影響	303	89	41	432	34	18	△7	45

為替感応度

1円の変動が営業利益
に与える影響額

US\$ 17億円
EURO 4億円

US\$ 15億円
EURO 4億円